

貴金属ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2023/09/11号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



銀ETF、プラチナETF証拠金取引上場特集号（後編）

銀とプラチナの新たな投資商品上場！

Gold



Silver



Platinum



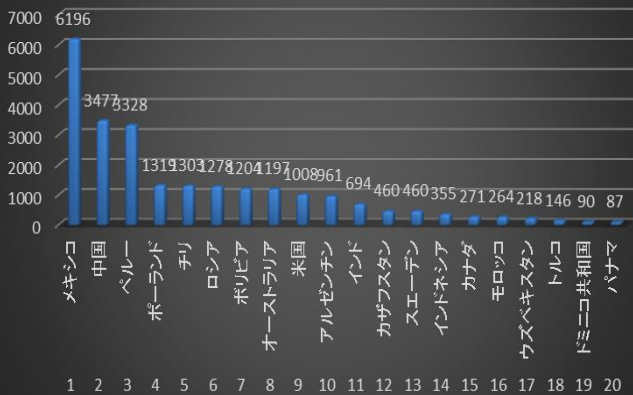
「貴金属取引の新たな選択肢：銀」

金ETFに加えて、プラチナETFそして銀ETFの証拠金取引が始まりました。先週の前編ではプラチナに関して詳しくレポートしましたが、この後編ではシルバーに関して書きましょう。ゴールドとシルバーの人間との付き合いは有史以来数千年になります。プラチナがほんの2~300年の歴史しかないことを考えると、この二つの貴金属は人間とともに長い時間を経てきたのです。現在でこそシルバーの価値はゴールドの80分の1と、歴史的にみて非常に割安な状況にあります。（次ページの金銀比価を参考のこと）しかし古代ではおそらく、シルバーの方がゴールドよりも価値があったとされています。ゴールドは自然金と言う形で発見されるのに対して、シルバーは自然銀ではほぼ出てこないからです。シルバーの供給が増加し安定したのは、精錬技術の発達と中南米での大規模銀鉱山の発見までまたなければなりません。それでも中世のシルバーの価値はゴールドの15分の1くらいであり、現在ほどその価値が下がったことはありませんでした。この「安さ」のために、米国ではシルバーは「貧乏人の金」と呼ばれ、基本的にゴールドと同じ動きをするために、ゴールドが上がるという状況では米国の個人投資家はこぞってシルバーを買います。大富豪もまたシルバーが好きです。歴史上シルバーを「買占め」の動きに出たのは石油王ハント兄弟、ウォーレン・バフェット、ビル・ゲイツなど錚々たる名前が語られています。そういった動きで時々シルバーは爆発することがあり、値動きが軽いところがゴールドやプラチナと違う点でしょう。もちろん安価なために手掛けやすいという点もあります。ゴールドは違った魅力があるメタルです。

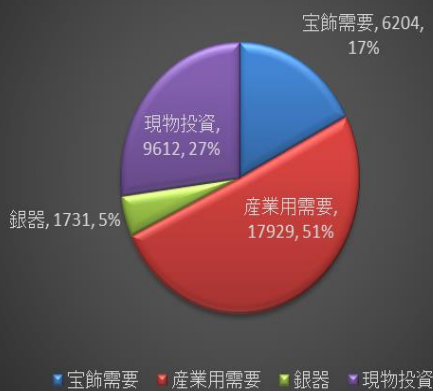
本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

【シルバーの基礎知識】

シルバー生産国と年間生産量(トン)



2023年シルバー需要予想(36,298トン)



「金銀比価の動き」



1. シルバーの鉱山生産

シルバーの生産はメキシコとペルーが長い間二大生産国でしたが、近年では中国の伸びが際立っており、現在ではペルーを上回るまでに増加しています。現在ではこの三国で世界の生産量の半分を占めています。シルバーの生産とゴールドの生産の大きな違いは、ゴールドはそのほとんどすべてが「金鉱山」から生産されるのに比べて「銀鉱山」から生産されるのに比べて「銀鉱山」から生産されるシルバーは30%にしか過ぎません。最も多くシルバーが生産されるのは鉛亜鉛鉱石からの副産物として35%です。銅鉱石からは20%、金鉱石から13%とその7割近くは、「副産物」としてほかの鉱石から生産されます。銀鉱山からのシルバー生産コストは2022年で13.36ドルとみられており、現状でマーケットとの差は10ドルくらいの余裕があります。

2. シルバーの需要

シルバーの需要の半分は産業用需要であり、ゴールドが圧倒的に宝飾・投資用のメタルであることと比べると「材料」としての側面が強いことが特徴です。そのため基本的にはゴールドと同じ動きをしますが、産業用需要は景気に左右されることが多く、ゴールドにはないシルバー独自のマーケットの材料があります。現在最も伸びているのが太陽光発電パネルに使われる需要であり、過去10年間毎年13~14%のペースで需要が増えており、今後のシルバーの価格動向にも大きく影響することが予想されます。

3. 金銀比価

シルバーの価値の一つの指標として使われるのが金銀比価です。歴史的に金も銀も通貨として使われたためにその交換比率は歴史的に注目されてきています。現在の80対1という比価は歴史的にみるとシルバーがゴールドに対して最も安いレベルです。過去50年の平均は55~60対1。近代の欧米は15対1でした。金銀比価は具体的にシルバーの価値を測るのにはいい指標と言えるでしょう。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで